

令和4年 年頭のご挨拶



森田 弘昭

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

明けましておめでとうございます。

新しい年である2022年が始まりました。会員の皆様におかれましては新たな抱負と目標をもって新年を迎えられたことと思います。まずは会員の皆様と日本非開削技術協会が共に穏やかな新年を迎えることができたことに感謝いたします。

昨年も、世界中が新型コロナウイルス感染症に席捲された厳しい1年でしたが、ワクチン接種の進捗や社会全体がwithコロナスタイルに順応してきたことによって徐々に経済活動が再開されてきたように考えています。

会員の皆様におかれましては、この変化を受けて様々な取り組みに挑戦されたのではないかとご推察申し上げます。当協会においても、ITを駆使した様々な取り組みを実施してきましたが、至らぬことが多々あったと考えています。反省にたつてこの1年間を振り返りたいと思います。

まず、昨年2021年は当協会の職員の交代がありました。国際部長が2月、事務職員が5月、事務局長が10月に交替し業務の一時的な停滞が懸念されましたが、全く支障はありませんでした。会員の皆様には総会などの場を借りてオンラインで新職員を紹介させていただきましたが直接事務所を訪ねていただき新職員とリアルに意見交換をしていただければと考えています。

近年、推進工法を筆頭に非開削技術の海外への展開活動が官民共同で積極的に進められています。この活動では国が日本の技術基準を海外に普及させ本邦企業が受注活動を行うビジネスモデルを採用しています。当協会ではこの活動を支援するために国土交通省が3月に策定した東南アジア版推進工法基準案（青本）の策定に（公社）日本推進技術協会と一緒に参加しました。

2月には、Web（Zoomウェビナー）方式で非開削技術講習会を実施しました。HDD工法、管路更生工法、地下探査方法、推進工法についてそれぞれの専門家の皆様から講演をいただきました。本講習会は、（公社）日

本推進技術協会と（公社）日本下水道管路管理業協会の共催で実施しました。

7月には、第28回非開削技術講演会を品川シーズンテラスカンファレンスで会場およびWeb併用型で実施しました。国土交通省下水道部流域管理官の西計画調整官に「流域治水と下水道の役割」、国土技術政策総合研究所の茨木主任研究官に「ベトナムにおける下水道の現状と課題」といういずれもホットな話題を講演していただきました。

8月には下水道展と併せて非開削技術見学会・研修会を大阪で開催させていただきました。見学会は、大阪市建設局が発注した延長279m、呼び径3000の泥濃式推進工法の現場で受注企業の全面的な協力を得て掘進機部分まで見学させていただきました。研修は、大阪ガス（株）導管技術センターで地下探査技術・HDD（誘導式水平ドリル）工法の座学講習と実演を体験することができました。

10月には、第32回非開削技術研究発表会を講演会と同じ会場で会場およびWeb併用型で実施しました。全13編の発表を4セッションに分けて実施いたしました。

また、11月には国際非開削技術協会の総会がWeb形式で開催され、当協会を含め世界各国から24協会が出席しました。来年も対面型の国際会議・展示会開催が困難である場合、Webを活用した発表の場を確保していただけるよう発言し、日本の存在感をしっかりと示すことができました。

昨年の協会活動を振り返りますとwithコロナスタイルの習熟や職員の交代を含め当協会にも非開削の世界にも新しい潮流が流れ始めたのではないかと感じます。当協会は、この新しい潮流を大切にして会員の皆様のお役に立つ活動を進めていくことを心に念じ取り組んでいく所存です。

新しい年が会員の皆様にとって実りある年となりますように祈念して年頭のご挨拶といたします。